

若手・女性・外国人研究者、国際共著論文を対象に、国際的影響力の高い学術誌(WoS/Scopus収録誌)への英語論文の投稿を支援することにより、研究成果の国際的発信力を一層高め、大阪大学の研究力の強化を促進する。

本事業のポイント

長期にわたる(最長2年間)全般的なサポートの実施

- 論文の校正(再校正含む)
- 投稿前ピアレビュー
- 校正内容のダブルチェック
- 査読コメントへの対策
- リジェクトの場合の相談
- 当該研究の国際学会での発表支援
- 社会に研究成果を発信するためのアウトリーチ活動 等

外国人研究者へのサポート

英語・中国語での支援・相談等に対応

柔軟な受付体制

研究者が利用しやすいように、毎月受付期間を設定

専門性の高い支援

博士号をもつURAとアウトリーチ専門家によるチーム構成で、適切なアドバイスが可能

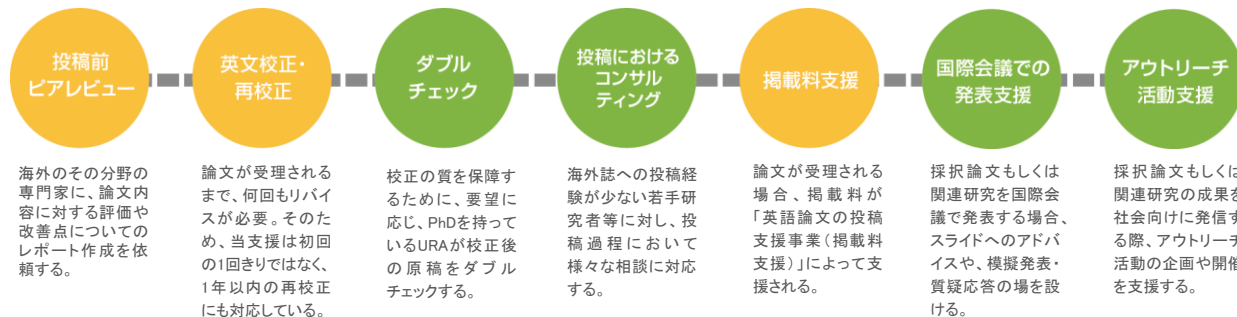
取り組み実績と得られた成果

平成26年度6月から当プログラムを開始して以来、研究者の声を反映させ、支援対象の拡大、支援内容の追加、支援チームの増員等、関係部局との連携によってさらなる経費の確保を経て、プログラムを充実してきた。平成29年度までに、合計146件の支援を実施した。

平成30年度以降は、プログラムの安定した運営を最優先に、研究情報の発信において変化しつつある研究者のニーズや国内外のトレンドを把握し、研究大学強化促進事業終了後も継続可能な支援の仕組みを提案することを目指す。

本事業の目指すイメージ

研究成果の発信を最初から最後まで支援する **費用支援** + **URAによる支援**



採択者の声

医学系研究科若手研究者より: 英語論文となるとハードルがあがるので、初回は支援があると非常に助かる。支援に加え、URAに相談できる体制があることは非常に頼もしい。

人間科学研究科女性研究者より: 普通の校正会社のコメントと違い、理由を書いてくれるので、理解しやすかった。仲間内だと表現より内容に目が行きがちなので、第三者的にURAの方にコメントをもらえて良かった。

若手研究者・女性研究者・外国人研究者を対象に、情報発信の方法に関する相談に応じ、制作費用を支援するものです。市民社会向けはもちろん研究者どうしの交流にも着目し、これを盛んにして大阪大学全体の研究力向上につなげる考えです。



本事業のポイント

研究者のライフサイクルを見据えたサポートの実施

- ① 研究を発展させるためにどのような情報発信を行えばよいのか、その長期的な方針を検討する段階での相談に応じる。(経営企画オフィスURA部門が担当)。
- ② 研究内容を説明するためのグラフィックスなどを制作する場合、6万円(消費税込)を上限に必要な費用を支援する。研究者が長くつきあえる制作パートナーを探す上での支援も視野に含める。
- ③ 大阪大学研究者総覧やResearchmapといった既存の研究者情報ポータルフル活用や、Facebook等SNSの活用を前提とし、自前のHP制作や運用を最小限にとどめる発想を基本とする。

専門性によるサービスレベルの向上

高等教育、大学経営に関する修士号をもつURAによって、近年の大学における研究活動や科学技術・イノベーション政策を踏まえての支援を実行する。広告クリエイティブ、サイエンスコミュニケーション、アウトリーチ活動に関するディレクション経験を有する実務家や海外の研究戦略に詳しいURAを支援チームに加えることで、サービスレベルの向上を図る。



取り組み実績と得られた成果

平成25年度に当プログラムを開始して以来、研究者の声を反映させ、支援内容の見直しを行う一方、1件あたりの支援コスト縮小によってより多くの研究者に、費用対効果に優れたサービスを提供できる体制構築を模索してきた。平成29年度までに合計47件の支援を実施し、1件当たり支援コストは約 1/7 に低減した。

平成30年度以降は規模の拡大を図る。サービス内容については、個々の研究者の動態、特に若手研究者における研究情報の探索・獲得スタイルの変化に注目し、ここに的確にフィットする情報発信を全学的に行えるような支援の仕組みの提案を目指す。



本事業の目指すイメージ

研究の質を高める情報発信を支援する。

費用支援 + URAによる支援

研究者の情報発信ニーズに広く対応する。気軽に相談できるサービスを目指す。

大阪大学が運営する研究者総覧やResearchmapの活用など、基本となる情報発信をしっかりと行う。

適材適所で図や動画を使うために、制作者と研究者を結び付ける(費用面だけでなく、適した人材を探す部分をサポートする)。



採択者の声

●文学系研究科若手研究者より

HPを作成いただいたおかげで、私の研究や教育関連イベントをフェイスブック、ツイッターなどで告知し、そのままホームページに引き込んで私を知って貰う流れを作ることができています。とても役に立っています。授業受講学生に対して休講などの速報をツイッターで流すことで、登録(フォロー)してもらって、イベント周知に利用するというかたちもできました。本当にありがとうございます。

●工学系若手研究者より

研究者としての実績については(大阪大学)研究者総覧や Research Map などのサービスを利用して遅延無く正確に情報を発信すること、またホームページでは外部のサービスにストックできない情報を載せていくというような使い分けのアイデアが新鮮だった。無理なく続けられて、効率のよい情報発信ができるようになった。ありがとうございます。

人文社会系の研究成果を諸外国に発信するに当たり、言語の壁が大きな障壁となっている現状に鑑み、本学研究者による出版物等の国際的発信(外国語翻訳業務等)を支援することによって本学の研究分野における国際的な存在感を高める。

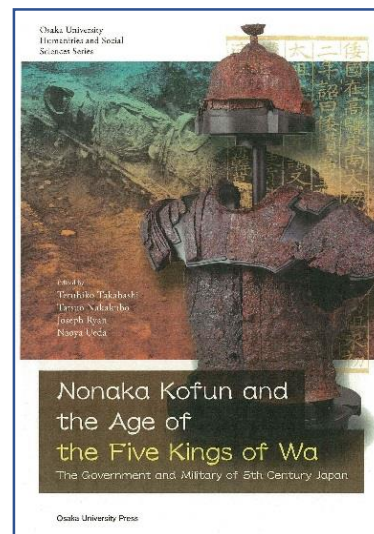
本事業のポイント

本学の教員によって日本語で著述された「人文・社会科学系の研究者向けあるいは一般向け図書(単著・論文集)」、または「大学生または大学院生向け教科書」として既に出版されており、一定の評価を得たものに対して、英訳費用を最大300万円支援する。

具体的事例



高橋 照彦、中久保 辰夫 編著
ISBN978-4-87259-220-7
大阪大学出版会



高橋 照彦, 中久保 辰夫 編著
ISBN978-4-87259-549-9
大阪大学出版会

関係部局と緊密に連携し、国内外から専門家を招き、研究情報の国際的発信をテーマとしたセミナーやワークショップを企画、実施する。



本事業のポイント

英語論文の投稿支援事業の取組実績(個別支援)を踏まえ、より幅広い研究者、学生や関係者に、英語論文の書き方、海外ジャーナルへの論文投稿における対策等について知見を深めてもらうため、セミナー等を企画・実施しています。

セミナー・ワークショップの様子



クリティカル・シンキングに基づいた英語論文の書き方セミナー



How to Publish Your Articles/ Books? Advice from Cambridge University Pressセミナー



人文社会科学系研究者のための英語論文の書き方セミナー



科学論文の書き方セミナー



取り組み実績と得られた成果

平成27年度より、附属図書館、全学教育推進機構、微生物研究所等の部局と連携し、下記のように研究情報発信において幅広くカバーし、様々なテーマを取り上げ、外国人研究者や人文社会系研究者の積極的参加も意識し、平成29年度までに合計10回のセミナー等を企画・実施した。本学の教員、大学院生等のべ1200名が参加。

英語論文の書き方

- 若手研究者のための英語論文執筆スキルアップセミナー(平成27年)
- 第1回、第2回Natureや一流ジャーナルへ挑もう(医学・生命科学系)ワークショップ(平成28、29年)
- クリティカル・シンキングに基づいた英語論文の書き方セミナー(平成30年)

投稿知識

- 受理されやすい科学論文の書き方セミナー(平成28年)
- 英語論文投稿における査読対策セミナー(平成28年)

リソースの利活用

- ホームページを使った研究成果の発信ワークショップ(平成28年)

プレゼンテーション等のスキルアップ

- プレゼンテーションのスキルアップセミナー(平成28年)

人社系の情報発信

- 人文社会科学系研究者のための英語論文の書き方セミナー(平成29年)
- ケンブリッジ大学出版社によるセミナー：論文や本を出版する方法(平成29年)

平成30年度以降も、新しいテーマを取り入れ、セミナー等を企画する予定である。